

令和元年度の活動内容について

生き物調査

H30 第2回魅力アップ協議会 事務局提案内容

- ①松江堀川の生き物調査、水質調査（令和元年6月頃）【継続】
松江堀川全体の環境の変化を把握するため実施する。
- ②城山内堀川での捕獲調査（令和元年5月～11月）【縮小】
アカミミガメの減少を確認出来たため、頻度を減らして環境の変化を確認する。
※カメ類の食性調査、移動範囲特定調査、産卵巣をあらす生き物の特定調査は今年度で終了

提案内容に対する意見

- ・アカミミガメがワナに慣れた可能性がある。(①、②)
- ・城山内堀川以外の河川でのアカミミガメ対策の予定はあるか。(①、②)
→城山内堀川の調査箇所は「1.アカミミガメが多く生息している」「2.他種に影響が出やすい閉鎖区間である」「3.観光スポットである」これらのことから、当面の間はここを集中的に対策することとしている。
- ・外来種対策は何もしなくなると増えるので、継続していくことが基本となる。データから判断し、捕獲数が減少しているため、頻度を落とすことは良いが捕獲調査については状況にあわせた対応が必要である。(②)

令和元年度活動計画（案）

- ① 松江堀川の生き物調査、水質調査（令和元年6月頃）【継続】
調査位置：松江堀川全体の環境の変化を把握するため H30 と同一箇所(11箇所)で実施。
調査方法：カゴ罟、投網、タモ網等を用いて生き物を捕獲
COD、透視度、塩分濃度を捕獲調査地点で調査
- ② 城山内堀川での捕獲調査（令和元年5月～11月）【継続】
調査位置：城山内堀川（昨年度と同様）
調査方法：カゴ罟による捕獲調査
在来種はリリースし、外来種はホシザキグリーン財団に持ち帰ってもらう。
調査頻度：月1回(1週間程度)※認定 NPO 法人 自然再生センターが実施する調査に同行
5月～7月での捕獲状況を考慮し、8月～11月の調査頻度を検討

啓発活動

H30 第2回魅力アップ協議会 事務局提案内容

①一般参加の松江堀川調査【新規】

今年度のトヨタソーシャルフェスに代わる、小中学生を対象とした一般参加の生き物調査、水質調査を実施する。あわせて松江堀川の汽水環境や宍道湖からの導水に関する学習会も実施する。

②各種イベント参加【継続】

今年度参加した松江市環境フェスティバル等、各種イベントに参加し、多くの方への啓発活動を行う。

③啓発看板の設置【新規】

松江堀川の生き物紹介及び汽水環境及び宍道湖からの導水に関する説明看板を設置する。また堀川沿いの案内看板を設置し、周辺施設との関係を分かり易くする。

協議会後の動き

・3月19日 松江市PTA 連合会第一ブロックより「松江堀川の水質改善活動」を行いたい旨、魅力アップ協議会の事務局に話があった。

→活動内容が協議会の目的と合致するため、後援としてこの活動に協力していきたい。

→啓発活動で実施予定である一般参加の松江堀川調査をこの活動とタイアップして行い、地元の小中学生に参加してもらう。

令和元年度活動計画（案）

①一般参加の松江堀川調査【新規】

「千鳥のお堀を学ぶ会」が実施する小中学生を対象とした生き物調査に協議会として後援し、これを開催する。

調査位置：松江堀川（主に城山内堀川）

実施内容：カゴ罟、投網、タモ網等を用いて生き物を捕獲

COD、透視度、塩分濃度を捕獲調査地点で調査

汽水環境や宍道湖からの導水に関する学習会

※具体的な実施内容等の計画は今後調整

②各種イベント参加【継続】

松江市環境フェスティバル等、各種イベントに参加し、多くの方への啓発活動を行う。

③啓発看板の設置【新規】

松江堀川の生き物紹介及び汽水環境及び宍道湖からの導水に関する説明看板を設置する。また堀川沿いの案内看板を設置し、周辺施設との関係を分かり易くする。

令和元年度 第1回『汽水の松江堀川』魅力アップ協議会 今年度の活動について

生き物調査

①松江堀川の生き物調査、水質調査（令和元年6月中に1回）

◇調査目的

松江堀川の生態系を把握し、状況に応じて今後の対策について検討する

◇調査方法

- ・カゴ罟、タモ網、投網等を用いて、生き物を捕獲し捕獲数等を記録。
在来種は計測後リリース、外来種はホシザキグリーン財団に持ち帰ってもらう。
- ・捕獲調査地点の水質（COD、透視度、塩分濃度）を確認



カゴ罟



タモ網



投網

◇調査箇所

H30 年度調査箇所と同一箇所（11箇所）

※過年度からの推移を調査するため、同一箇所を実施。

調査対象河川：松江堀川+中川、比津川



②城山内堀川での捕獲調査（令和元年5月～11月）

◇調査目的

大手門前の観光スポットであり、多くの外来種が確認されていることに加え、閉鎖区間で検証・分析が比較的容易であることから例年どおり城山内堀川で調査を重点的に行い、外来種を減らすことによる生態系への影響を確認する。昨年度の調査結果とも比較し、捕獲調査による効果も確認する。

◇調査方法

- ・カゴ罠を用いて生き物を捕獲し記録。①と同様に在来種はリリース、外来種はホシザキグリーン財団に持ち帰ってもらう。
- 昨年度までのところで、アカミミガメの減少を確認できたため、頻度を落とし、月1回程度とする。（調査頻度は状況に応じ調整する。）
- 罠の位置及び数は変えずに行い変化を確認する。



◇調査箇所

城山内堀川（千鳥橋付近）

啓発活動

① 一般参加の松江堀川調査（令和元年7月～8月頃）※今年度新規

千鳥の杜学園地域推進協議会が取り組む「ふるさと教育」の一環で、任意団体(千鳥のお堀を学ぶ会)が今年度より実施する「松江堀川の水質改善活動」と協力し、小中学生を対象とした生き物調査を開催。

実施内容：カゴ罟、タモ網、投網等を用いた外来種の捕獲調査

捕獲調査地点の水質調査（COD、透視度、塩分濃度）

汽水環境や宍道湖からの導水に関する学習会

調査場所：松江堀川（主に城山内堀川）

参加者：小中学生+保護者（校区：第一中学校、内中原小、法吉小、城北小、生馬小）

※松江堀川の水質改善活動とは

小中一貫教育の取り組みの一つに小中学校、公民館、住民が一体となって「千鳥の杜学園地域推進協議会」を発足させ活動しており、その一つに「ふるさと教育」がある。

今年度から取り組まれるふるさと教育の活動が「松江堀川の水質改善活動」である。



※詳細な実施内容は今後、(仮称)千鳥のお堀を学ぶ会と調整。

② 各種イベント参加

昨年度参加した松江市環境フェスティバル等の各種イベントに参加し、啓発活動を行う。

③ 啓発看板の設置※今年度新規

松江堀川の生き物紹介及び汽水環境及び宍道湖からの導水に関する説明看板を設置する。また堀川沿いの案内看板を設置し、周辺施設との関係を分かり易くする。